

国語科学習指導案

指導者 尾道市立因島南小学校 新谷 優果

1 研修テーマ 「読みたい」「書きたい」を大切にする指導の工夫～自分の体験と結び付けて～

2 日 時 令和5年10月26日(木)第5校時

3 学 年 第1学年2組 男子9名 女子10名 計19名

4 単元名 すきなりのものをしょうかいしよう
「いろいろなふね」(東京書籍 あたらしい国語 一下)

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「(1)オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる」力を育成するには、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりすることで、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本単元で扱う「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などについて説明した文章である。四種類の船の例示が同じ文章構成、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えることに適している。また、本学級の児童は因島に住んでおり、船も普段から身近な存在に感じていると考えられる。フェリーや漁船など、児童が乗ったことや、見たことがある船が例として出てきており、自分の体験も想起しやすい教材である。

(2) 児童観

本学級の児童はこれまで、「どうやってみをまもるのかな」において、文章のまとまりごとに内容を整理し、本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出す学習をした。児童は、それぞれの動物の段落から、大切な語や文を選び取り、段落構成の共通点に気付くことが出来ていた。

また、「えにっきをかこう」「はなしたいなききたいな」の単元や生活科の学習において、自分の体験や感じたことを文章にする活動にも積極的に取り組んでいる。自分の体験をみんなに話すことや、みんなの体験を聞くことへの興味・関心も強く、楽しさを感じている様子である。

しかし、教材文の内容と自分の体験を結び付けて感想をもつということには慣れていない。文学的な文章を読んだ感想を書くときも、「〇〇がおもしろかった。」「〇〇がすごいなおもった。」など、簡単な感想のみを書く児童がほとんどである。本単元でねらいとする、「文章の内容と自分の体験を結び付ける」ことで、児童の感想がより深まるものになると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、四種類の船の「やく目」「つくり」「できること」について重要な語や文を選び出して整理した後、自分の好きな乗り物について友達に紹介するカードをつくることを言語活動として設定する。まずは、四種類の船それぞれについて知っていることや経験、写真を見て想像したことを自由に話す時間を設けることで、児童の体験を引き出していく。その際、フェリーに関しては、因島にもフェリー乗り場があり、多くの児童がフェリーに乗った経験があると予想されるため、因島で使われているフェリーの写真を準備しておくことで、児童が体験を想起する手立てとする。漁船や客船に関しては、因島に造船所があり、他学年が社会見学をしているため、その写真も用意する。消防艇は、見たことがある児童は少ないことが予想されるため、児童にとってもう少し身近な消防車を想起させながら、話をさせる。児童に自由に話をさせた後で、文章を整理させ、第9時でもう一度、最初に話したことを振り返ることで、自分の体験と教材文の内容とを比較できるようにする。

6 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕 (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

7 単元の評価規準

乗り物について書かれた本や文章を読み、感じたことや分かったことを「のりものカード」にまとめる活動を通した指導		
		【言語活動例 C (2) ア】
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C (1) オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	<p>評価基準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p>	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>【ワークシート】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">と、おもった。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">だから がすごい！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">きやくせんが すごい！ とくらべて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">いろいろなふね 名まえ（ ）</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">とくらべて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">きやくしつで休んだりしよく どうでしよくじができたります。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">できること ふねのなかにはきやくしつや しよくどうがある。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">つくり きやくせん。たくさんの人を はこぶためのふね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">やく目</div> </div> </div> <p>【ノート】</p> <p>わたしは、きやくせんがすごいとおもいました。きやくせんには、きやくしつやしよくどうがあります。</p> <p>わたしがとまったことがあるホテルとくらべて、へやがあったりしよくじをしたりすることができることはおなじだけれど、そのままうみの上にかんで、ちがうばしょにいけることがすごいとおもいました。</p> <p>だから、へやにいたりしよくじをしたりしながら、まどからかわるけしきを見るのは気持ちいいだろうとおもいました。</p>	<p>・文章の内容に関する自分の体験を聞き出し、その体験と比べて、同じところや違うところはどこか、それについてどう思うかを個別に聞き出す。</p> <p>・自分の体験を想起しやすくするために、児童の住む地域やその近くで使われている船の写真を用意したり、できることが似ている別の物の写真を用意したりしておく。</p>

8 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1	ふねについて知っていることを発表し、範読を聞く。				
二	2	教材文を読み、大体的内容や構成を捉える。				
	3	段落ごとに切った教材文の正しい順番を考えて、並び替える。				
	4	漁船について知っていることと、漁船の「やく目」「つくり」「できること」を結び付けながら読み、「やく目」「つくり」「できること」の関係を確かめる。	○			[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	5	フェリーボートについて知っていることと、フェリーボートの「やく目」「つくり」「できること」を結び付けながら読み、「やく目」「つくり」「できること」の関係を確かめる。				
	6	客船について知っていることと、客船の「やく目」「つくり」「できること」を結び付けながら読み、「やく目」「つくり」「できること」の関係を確かめる。				
7						
8	消防艇について知っていることと、消防艇の「やく目」「つくり」「できること」を結び付けながら読み、「やく目」「つくり」「できること」の関係を確かめる。 ・似ている物や自分自身の経験、船の中には何があるのかを予想してワークシートにまとめる。 ・それぞれの船のやく目、つくり、できることをまとめる。 ・事前に考えた船の中にあるものが、教材文の内容と合っているか確かめる。					
	9・10 (本時)	教材文の4つの船の中から好きなふねを選び、自分の体験と結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめ、交流する。		○		[思考・判断・表現] <u>ノート</u> ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 [主体的に学習に取り組む態度] ・進んで文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、書きまとめようとしている。

三	11 } 13	他の乗り物について調べ、やく目、つくり、できることを整理してしょうかいカードをつくり、交流する。		○	<p>〔思考・判断・表現〕</p> <p><u>カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
四	14	単元を学習しての振り返りを書く。			

9 本時の学習 (10/14)

(1) 本時の目標

前時までにまとめた、教材文の4つの船の中から好きなふねを選び、自分の体験と結び付けて分かったことや思ったことについての文章を、交流することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1. 音読をする。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <p>3. 教材文の中から好きな船の一つ選ぶ。</p> <p>4. 理由をノートに書く。</p> <p>5. 書いたことを交流する。</p> <p>6. すごいと思った船をもう一度選ぶ。</p> <p>7. 本時の振り返りを書く。</p>	<p>ふねを一つえらんで、すごいとおもったところをしょうかいしよう。</p> <p>□選んだ船にネームプレートを貼りましょう。</p> <p>○黒板に4つの船の写真を貼り、すごいと思った船のところにネームプレートを貼らせることで、友達が何を選んだのか視覚的に分かるようにし、理由を言ったり聞いたりしたいという意欲を引き出す。</p> <p>○前時に書いたワークシートを見ながら、すごいと思った理由を文章にして書く。</p> <p>◆文章の型をつくっておく。教師が見本をつくって見せる。</p> <p>①ペアで交流する。 ②理由を聞きたいと思った友達と自由に交流する。 ③全体で交流する。</p> <p>・ぼくは、漁船がすごいと思いました。ぼくが前にしたことがある釣り比べて、漁船は大きな網ですごくたくさんの魚を釣ることができてすごかったです。だから、ぼくも漁船に乗ってたくさんのイカを釣ってみたいなと思いました。</p> <p>・わたしは、消防艇がすごいと思いました。わたしがこども園のときに乗ったことがある消防車と比べて、ポンプとホースがのっているのは同じだけど、消防艇は船の火事を消すために海の上を走れるのがすごいと思いました。だから、消防車にも動くホースが付いていたら早く火を消せるのになと思いました。</p> <p>□友達の意見を聞いて、この船もすごいなと思った船があった人はネームプレートを動かしましょう。</p> <p>○無理に変えなくても良いことを伝える。</p> <p>□今日勉強したことの振り返りを書きましょう。</p> <p>○今日の学習で分かったことや、友達の意見を聞いて思ったことを書かせる。</p> <p>・わたしは、フェリーボートがすごいと思っていたけれど ○○くんが漁船の大きな網でたくさんの魚を捕まえられるところがすごいという意見を聞いて、「たしかにそれもすごいな。」と思いました。</p> <p>・ぼくは、客船がすごいとっていて、○○さんも同じ船を選んでいて嬉しかったです。でも、すごいと思った理由は違っておもしろかったです。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 進んで文章の内容と自分とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って書きまとめようとしている。 (ノート)</p>

(3) 板書計画

いろいろなふね

④め

ふねを一つえらんで、すごいとおもったところをしようかいしよう。

写真

写真

写真

写真

ネームプレート

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

①意欲付け

本学級の児童は、島で生まれ育っているということもあり、船を見たり、乗ったりしたことがある児童がほとんどである。まずは、この「いろいろなふね」という文章に関心をもってもらいたいと考え、児童の船に関する知識をたくさん出させた。また、因島に縁のある船の写真を提示することで、児童が自分の経験と繋げて考えられるようにした。

②ワークシート

ワークシートには、「やく目」「つくり」「できること」の他に、「じぶんのたいけん」という枠を広くつくり、先にそれぞれの船に関する知識や自身の経験を自由に書かせて、叙述から重要な語や文を選び取らせた。そうすることで、自分の知っていることや経験したことは、叙述のどの部分と関係しているのかを確かめられるようにした。経験の無い児童に対しては、その船と似ているもの（客船とホテルなど）と比較して考えさせた。

また、「やく目」「つくり」「できること」を書き出す際、客船とフェリーボートの時は文の型を用意して記載しておいたが、漁船と消防艇の時は型を無くして自分で書き方を考えさせる等、段階的に手立てを減らしていった。そうすることで、児童が叙述のどこからどこまでを抜き出して書けば良いのかを理解し、重要な語や文を考えて選び出せるようになった。

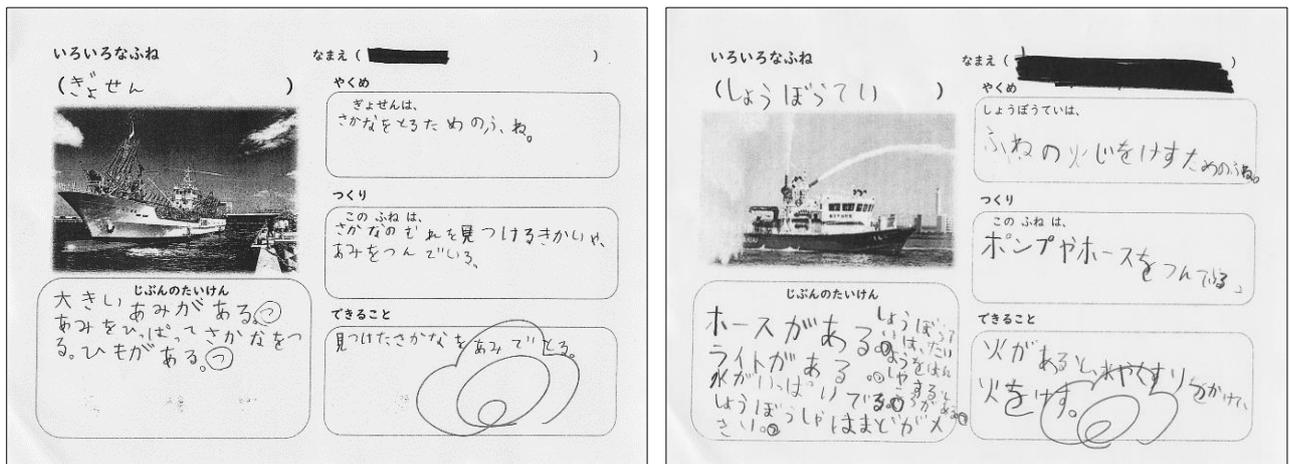


写真1・2 教材文から重要な語や文を考えて選び出す学習で用いたワークシート（漁船・消防艇）

③並行読書

学校司書に、乗り物について詳しく書かれた低学年向きの本を選出してもらい、学級文庫に並べておいた。単元の最初に「のりものカード」を作ることを児童に伝えておき、空き時間にいつでも乗り物に関する本を読めるようにしておくことで、どの乗り物を紹介するか考えておけるようにした。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

並行読書した資料の中から乗り物を選び、「やく目」「つくり」「できること」を書き出す場面では、どの児童もつまずくことなく活動に取り組むことができた。しかし、「のりものカード」を作る際、見付け出した「やく目」「つくり」「できること」の中から、それぞれのつながりを考えて重要な語や文を選ぶことに難しさを感じる児童が数名いた。「この乗り物には何が載っている?」「それで何が出来るの?」などと個人的に声をかけることで、必要な語や文を選び出すことができた。選んだ本や資料の情報が多すぎて整理できていない児童には、「乗り物を変えてもいいよ。」と声をかけると、進んでもう一度選び直す様子が見られた。

11 評価の実際

(1) 評価の具体

〔思考・判断・表現〕 「読むこと」オの評価について

写真3は、第9時に書いたワークシートである。型に合わせて、自分の選んだ船がすごいと思う理由を文章の内容と自分の体験とを結び付けて説明した上で、思ったことを書いている。

下の写真は、第10時において、そのワークシートを基に、ノートに文章にまとめ直したものである。自分の体験を想起して感想をもつことで、本単元の学習前よりも詳しく自分の思いを書くことができている。なお、第10時の児童の姿は、〔思考・判断・表現〕 「読むこと」オの評価の参考とするとともに、主として〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価材料としている。

いろいろなふね

なまえ ()

やく目
ぎよせんは、さかなをとるためのふねです。

つくり
このふねは、さかなのむねを見つけるときいや、あみをつんでいきます。

できること
見つけたさかなをあみでとります。

ぎよせんがすごい！

まねのったフリポート
とくらべて、ちうにマウなをいれるところがあること

だから、わたしもぎよせんにのって、おもしろいかな

がすごい！

とおもった。

写真3 第9時において児童が文章の内容と結び付く体験を書いたワークシート



写真4 写真3のワークシートで書いた文章の内容に対する思いを文章化したもの

(2) 児童の評価

「読むこと」において、「十分満足できる」状況（A）と判断した児童は2名、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童は14名、「努力を要する」状況（C）と判断した児童は3名であった。文章の内容と自分の体験とを結び付けて気付いたことを書くことができた児童は8割程度いた。しかし、文章の内容と自分の体験とを関連付けた上で文章の内容に対する感想を書くことができなかった児童がいたことは課題である。

12 成果と課題

(1) 成果

単元実施前、本学級の9割の児童が「国語の学習が好き」と答えていたが、「説明文より物語の方が好き」と答える児童が多かった。理由を聞くと、「物語の方が読んでいて楽しいから」と話していた。今回この研修を受けて、「いろいろなふね」で説明的な文章の単元を実践したところ、児童はとても楽しかったようで、単元終了後も「もっと『いろいろなふね』を勉強したい。」と話す児童がたくさんいた。また、今まで「国語の学習が好きではない」と答えていた児童も、単元が終わっても乗り物に関する本を読みながら「次はこの乗り物について紹介したいな。」とつぶやいていた。自分の経験と繋いで考えながら、さらに新しい知識を得ることができるという説明的な文章の学習の面白さに気付いた様子であった。また、今までにも自分の感想を書くという活動はしてきたが、「〇〇がおもしろかった。」「〇〇がすごいとおもった。」など、あまり詳しく書くことができていなかった。しかし、本単元で自分の経験と比較して、何がすごいと思ったのかをワークシートに書かせてから、改めてノートに書かせると、全ての児童がより詳しい感想を書くことができていた。

(2) 課題

- ・すごいと思った船の理由を書く際、「網でたくさんの魚をとれるのがすごいと思った。だから、今度釣り竿でイカを釣りたいと思った。」など、前半と後半の内容が繋がっていない児童がいた。
- ・叙述から重要な語や文を抜き出すことは全員ができていたが、のりものカードを作る活動になると本に書かれていることから重要な語や文を見付け出すことに困難さを感じている児童が数名いた。

(3) 今後に向けて

- ・「だから」という言葉はどのような文章の時に使う言葉なのか等、文章のもつ意味を大切にしながら表現させる指導を続けていく。
- ・情報が多すぎる本もあったため、どの語や文を選んで書けば良いのか迷っている児童もいた。児童の実態に応じて、もう少し本の精選をする必要があると感じた。また、これからも国語の学習を通して、重要な語や文を考えて選び出す力を付けさせていきたい。
- ・児童の体験は多く引き出すことができたが、それを文章の内容と結び付けて解釈につなげるという部分に難しさを感じる児童が多くいた。そういった児童に対する有効な手立てを十分に講じることができなかったため、これからも引き続き個に応じた手立てについて実践を通して明らかにしていきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車スーパーずかん① しょうぼう車	小賀野 実	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん② パトロールカー きゅうきゅう車	小賀野 実	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん③ ブルドーザー パワーショベル	小賀野 実	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん⑤ せいそう車 いどうとしょかん車	小賀野 実	ポプラ社
くらべてみよう！はたらくじどう車1 しょうぼう車	市瀬 義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車2 パトロールカー・きゅうきゅう車	市瀬 義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車3 ブルドーザー・パワーショベル	市瀬 義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車4 バス・トラック	市瀬 義雄	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車5 せいそう車・じよせつ車	市瀬 義雄	金の星社
はたらくじどう車くらべ① パトカーときゅうきゅう車	国土社編集部	国土社
はたらくじどう車くらべ② バスとトラック	国土社編集部	国土社